

令和5年度 第1回五條市総合教育会議 議事録

■日時：令和6年3月28日（木） 16時30分から17時40分まで

■場所：五條市役所 議会委員会室

■出席者

平岡 清司 市長

井上 恵充 教育長

井本 誓晃 教育委員

寒川 英明 教育委員

大西 修二 教育委員

井田 栄子 教育委員

■事務局等

市 長 公 室 長 西本 久雄

すこやか市民部長 久保 雅彦

あんしん福祉部長 谷口 久美

教 育 部 長 名迫 雅浩

市 長 公 室 次 長 栗林 利光

すこやか市民部次長 桶田 美千子

あんしん福祉部次長 馬場 由美子

教 育 部 次 長 鹿田 里子

教 育 総 務 課 長 井藤 尚樹

学 校 教 育 課 長 西出 晃彰

生 涯 学 習 課 長 安満 義尚

文 化 財 課 長 前坂 尚志

子どもサポートセンター所長 古澤 祐子

教育総務課長補佐 辰巳 斉彦

企 画 政 策 課 長 神山 博美

企画政策課長補佐 平 和宏

1 開会（議事進行 西本市長公室長）

2 平岡市長挨拶

本日、令和5年度第1回五條市総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様方には大変お忙しい中御出席を賜り、誠にありがとうございます。井上教育長初め教育委員の皆様には、日頃から本市教育の充実、発展に、さらには子どもたちの健全育成や文化生涯学習の振興などに御尽力をいただき、心から感謝を申し上げます。様々な問題や課題の解決に向けて取り組んでいただいております、御苦勞をおかけしておりますが、五條市さらには日本の未来を担う子どもたちのために、引き続き、委員の皆様方のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。さて、グローバル化やデジタル化など、目まぐるしい速度でライフスタイルが多様化し成長し続ける現代社会では、

教育問題や社会課題から、発生する様々な事案が全国的に増加しています。このような複雑化した社会において、人づくり、人材育成は特に大切であると考え、子育ての環境や子どもたちの教育環境を充実させていくことが、大変重要だと考えております。その中で、私は昨年4月から五條市長として市政運営に当たることとなり、選挙公約として掲げておりました公立小中学校の給食費の無償化を令和6年度から恒久的に実施してまいります。この取組は県内12市の中では、本市のみの取組でございます。本市での子育ては安心、五條市で子どもを育ててよかったと思ってもらえるまちづくりを目指し、子育て世代には市を挙げて応援し、安心して、子育てできる環境を提供してまいります。本日は学力向上の推進について、五條市における不登校の状況についての報告並びに中学校における休日の学校部活動の地域移行について、様々な角度から御意見などを賜りたいと存じます。今後とも教育委員会と市が連携し、また協力し、これまで以上に、より教育の方向性を見いだすことができますよう取り組んでまいりたいと考えておりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げまして冒頭の御挨拶をさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

■議事録の署名

- ・平岡市長及び井上教育長が署名を行うことで承諾。
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、会議及び会議録は公開とすることで承諾。

3 報告案件

(1) 学力向上の推進について 《学校教育課》

①市の現状と課題

②小中一貫教育の更なる推進

③学力向上に関する主な事業

- ・ A I ドリルを活用した個別最適化学習（基礎学力の定着）
- ・ アフタースクール事業（家庭学習の習慣化）
- ・ 南部東部読解力向上プロジェクト（読解力の向上）

【質疑・意見等】

（平岡市長）

個別最適化学習になってから A I ドリルをやり出して、子どもたちはどういうふうに変わったのか。

（西出学校教育課長）

A I ドリルに関しましては、各学校でセレクトタイムという時間を設けていただいています。学校の中でしっかりと A I ドリルを使用する時間も設けていきながら、子どもたちが自分自身のつまずきを、判断してできていくように今進めているところであります。

（平岡市長）

学習について、子どもたちにとって楽しいものになってるかというところはどうですか。

(西出学校教育課長)

A I ドリルは、「すららドリル」を使っていますが、進化しています。子どもたちの活用時間がカウントされていきます。さらに今は、学習の中身とはまた違うところですが、ドリルを進めていくと、ゲーム性もあって、キャラクターが育っていくとか、何かのアイテムを手に入れることができるようになっていきます。新しいそういうようなところでも子どもたちは興味をもち、ドリルに取り組み、自分の分からないところが分かっていくとか、自分の苦手なところが克服できるというように進んで取り組んでいっていると思います。

(井上教育長)

聞くとところによりますと、「すららドリル」を使ったら家庭でどれぐらい学習したのかということが客観的に出てくるということです。学習時間が大変少ないというのが一つの課題かなというふうに思うんですけど、課長、このところにどういうふうにメスを入れていったらいいでしょうか。家庭も巻き込みながらということになるのかなというふうに思うんですが。

(西出学校教育課長)

A I ドリルに関しましては、子どもの学習状況が見れるような形で、それぞれアカウントを保護者にも配らせていただいております。子ども自身が、使った時間が分かるだけではなくて、保護者も、自分の携帯からでもアクセスできるようになっておりますので、しっかりとお子さんの今の学習状況を確認していただけることが一つあります。また、今学校では、セレクトタイムという時間を設けています。それだけではな

く、家庭でのA Iドリルの更なる活用や、家庭学習の仕方に関して、学校でも検討されております。

宿題をやったらもう終わりというようなことではなくて、家庭学習の時間として、例えば“6年生は1時間近くやりましょう。宿題がさっと終わっても、残った時間はA Iドリルを活用して、自分で更に勉強しましょう。”というような、家庭学習の仕方について今検討されているところです。

(2) 五條市における不登校の状況について 《子どもサポートセンター》

①不登校の児童生徒数の推移（小学校・中学校）

②不登校の原因

- ・取り組んでいること

(井田教育委員)

現状については何度も聞かせていただいているんですけども、やっぱり心の問題、やっぱり学校へ行きたいけど行けないとかあるかと思います。卒業式に行かせてもらった学校でも1名の子どもさんがどうしても卒業式に行けない。今行ったらふだん学校へ行っていないのに卒業式だけ来たんかって言われる。それが嫌だとかっていう思いなんかも本当に子どもさんの学校行きたいけど行かれないっていう気持ちをどうやって学校へ行く方向へ導いていくかっていうのがとても本当に難しいことだと思うんです。子どもサポートセンターでもいろんなことにいろんな方が関わっていただいて、子どもたちが学校へ行けるようにっていう形でしてもらってるんですけども、児童

がどんどん減ってきてる割に不登校の子どもたちが増えてるっていうことは、大人として悲しいし、やっぱり子どもが学校へ行って楽しいって思える環境をつくるのが大人の役目だと思います。いろんなことをしていただいてるんですけども、子どもから出ている発信がどこかにあると思います。不登校になる前に。それを現場の先生方に見つけていただいて、そこを救っていただく。一旦こういうふうに学校へ行けなくなると、なかなかその学校へ行くきっかけっていうのをつくるのが子どもにとって難しい。私も何人かその不登校の子どもさんを知ってるんですけども、環境を変えていくしかないと言って、学校を変えるとかそういうふうにされる親御さんもいらっしゃるんですけど。また、そこでつまづいてしまうと、子どもさんが自信をなくしてしまうとかっていうこともあると思うんで、小さいときから見ている現場の先生方、その辺の発信を早く見つけていただいて対応していただくっていうことをとても切望します。今こういういろんなことをしていただいてる中で、実際にこういうふうに子どもサポートセンターやいろんな方が関わってくださった中で、実際に学校へ行けるようになったっていう子どもさんもいらっしゃると思うんで、マイナス面ばかりでなくて、学校へ行けるようになった例もありますよということも聞かしていただけたらなと思います。

(古澤子どもサポートセンター所長)

井田委員のおっしゃるとおり子どもたちは学校に行きたいんですけど、登校することができない、思いがあっても行けないっていうお子さんに対しては、まず、訪問指導員が学校と連携をして、お子さん、保護者と寄り添いながら、丁寧に支援をしていま

す。実際、2年前は1人のお子さんが学校復帰したと聞いております。去年は1人の生徒がくすのき教室に登室しています。男子の生徒も登校する回数が増え、時間が増えたということもあります。

(平岡市長)

不登校で今五條市で51人と言われたと思うんですけど、不登校になっていくとき、小学校の何年生ぐらいからか、分かる範囲でいいんですけど、そういうふうになる子どもが多いのでしょうか。

(古澤子どもサポートセンター所長)

五條市は、小学校5年生頃から不登校傾向の割合が多くあります。

(平岡市長)

小学校5年生からそういう傾向にあるとしたら、その原因っていうのは、例えばじめなのか、そんなやっぱり最初傾向ってあると思うんだが、そういうとこっていうのは学校としてまず把握してるのかどうかは分かりますか。

(古澤子どもサポートセンター所長)

学校の先生方は一人一人の生徒児童に寄り添っていただいておりますので、休みがちな生徒さんがおれば保護者に連絡して状況を聞ききながら、お子さんを支援するサポートをされております。不登校になる傾向といいますと、休み明けは、行き渋り傾向があると聞いておりますので、そのタイミングに合わせて、より一層のサポート、丁寧な

支援をされてます。しかし、不登校になる傾向であったり、実際に休む日数が長くなると、サポートセンターと連携して、次の支援のステップのために、登校を促すようにサポートをするということをしています。

(平岡市長)

家庭と学校が連携してやってるってことですよね。

(西出学校教育課長)

補足ですが、学校教育課の指導主事も関わらせていただいているのですが、小学校5年生ぐらいから不登校になっていく傾向は、やはり思春期に入っていきますので人間関係が複雑になってくるところが一つと、学習面も非常に難しくなっていますので、なかなか学習についていけないということが要因と考えられます。さらに、今の子どもたちを取り巻く状況の中で、携帯であるとか、SNSであるとか、どうしても高学年になってくると使用時間が非常に長くなります。まだ1年生2年生ぐらいの子どもは携帯を持ってないのですが、高学年になると携帯を持ち、非常に遅い時間まで起きてしまうということが不登校になっていく要因にもなっていると考えます。

(寒川教育委員)

先ほど、不登校と言われたように、本当に子どもたちが発しているシグナルっていうのを取りあえず絶対つかんであげないといけないということなんです。初期症状ですね。皆さんも御存じだと思うんですけど、頭痛い、熱が出た、おなか痛い、下痢する。そういうことが最初の初期症状かなあと思うんですけど、我々は、自分の医療機

関として考えたときにその中で、取りあえず前兆を見逃さないということで。そこでどうするかっていうことになってくるんですけども。だから、不登校、登校しぶり、何もかも学校の方にも、学校へ行かせるっていう方法を考えるっていうんじゃなくて、自信を取りあえずもたせるっていうことは、1番先決じゃないかなあと僕は考えておりまして。学校現場とかでも先生がもうとにかく見守りましょうとか、保護者で話し合ったり、よく見守ってあげてくださいよとか、親も子どもの好きなようにさせてあげてとか。これはもう全然ご法度な話で、その辺はもうちょっと、それだけでは全然、不登校、登校しぶりは変わらないというふうに僕は思っております。厳しく行けというのもまたこれ具合悪い話で、学校側、保護者等考えて、進めていかないといけない。

(西出学校教育課長)

寒川委員がおっしゃられたこととして、学校と保護者が子どもの状況をしっかり確認し、登校につなげていくことができるかというようなところでしっかりと連携していきながら進めていくというのが、非常に重要であると思います。さらに、そこにサポートセンターのカウンセラーや指導主事もしっかりとつながっていきながら、子どもたちが1日でも早く、1回でも多く学校に足を向けてもらえるような形で進めていく形を今もとっているつもりではありますが、更に進めていきたいと思います。

(井上教育長)

資料14ページに不登校の原因を、もちろん学校教育課にも入ってもらいながらあげ

てもらっていますが、ここに書かれていることが全てではないですが、多様な原因があると考えられます。勉強が分からなくなったから行きたくないという子もおれば、SNSで生活リズムが乱れる、あるいは、SNSでの書き込みが友だち同士の広い範囲でいういじめ的な事象につながっている、あるいは、家庭にもうおりたくないという状況が多々見受けられる。全国的にももちろんそうですし、この五條市においても見られています。一人一人違うということを丁寧に、それからシグナルのお話も今いただきましたように、そういうことも注視しながら何らかのサインが出ていると思うので。それを早くつかむために、必要に応じて市でもスクールカウンセラーを入れてもらっていますが、相談ケースが余りにも多かったら増やさないといけないかもしれません。それから、もう学校だけではどうもならんということであれば、いわゆるSSW（スクールソーシャルワーカー）にも御意見をいただくなりして、家庭的な原因の解決にも入らないといけないこともあろうかと思しますので、教育がしっかりとやっていかないといけないのはもちろんですけど、子どもたちを支える体制をご意見を参考にしながら作っていただきたいと思います。

（井本教育委員）

多様性っていうのがものすごく大きいこの世の中になってきてるんじゃないかなっていうのは、本当に痛感するところです。多様性っていうのが例えば、今さっき言いました携帯ですね。携帯一つとっても例えば市長さんがおっしゃられたように、いじめがあるのかっていうところがあったり、またその携帯ゲームに没頭し過ぎて課金のよ

うなところに行ってしまうぐらい携帯に夢中になってしまった。あとまた生活の中で携帯が中心になってくるんですよ。携帯から依存が脱却できないっていうことがあるかなというふうに思います。私一つ気になったんですけども今、例えば全国平均と五條市の円グラフで出ているんですけども、例えば小学校から中学校が出てますよね。幼稚園とか保育所のとときの事例っていうのはないんですかね。文科省や全く全然そういったことは出てこないんですかね。

(鹿田教育部次長)

こども園で登園する時間が遅くなるとかっていうような傾向はあるんですが。ただ登園しない場合は今はスマホで全部、システムになって通知してますので、返事のこないところには連絡を入れたりはしているので、そんなにいないのかなとは認識しています。

(井本教育委員)

小学校に上がって、中学校になって、思春期のところで何かが起こるわけですよ。家庭環境なのか、何かの原因があると思うんですけど、その原因が今先ほど小学校5年生からっておっしゃってましたけど、何か全国的に小学校2年生っていう意見も何かあるみたいで、何かいろんな意見がある中でですけども、何かその幼稚園からずーっと規定の中で学校に上がったときなのか、それとも学校の中での生活でできないことがあるのかっていう何か原因が突き詰められるっていうことが大事なんじゃないかなと。予防策といいますか、もちろんカウンセラーとか専門医心理学っていうふう

なところでやっていただくのはいいんですけど、なるのを防ぐっていうふうなところが必要になってくるんじゃないかなあというふうには思うんです。そのとき、例えば、家庭教育ていうのがクローズアップされるかなあというふうに思います。情報教育、その感受性の部分をどうとらえていくのかっていうふうなところがすごく乏しくなってきたら、やはりその部分で引っかかってきたりすることもあるんじゃないかなあというふうにも思ったりもするんですけれども。そういうふうなあらゆる面で対策っていうのが必要になってくるかなあというふうに思います。

4 その他

(1) 中学校における休日の学校部活動の地域移行について 《生涯学習課》

- ①現在の中学校部活動の状況について
- ②奈良県の方針及び新たな中学校部活のイメージ
- ③これまでの取り組み
- ④今後の取り組み
- ⑤事業予算等

(井田教育委員)

先日、この話を聞かせていただいたんですけども、ここに教育委員会の教育委員の意見としても上がってるんですけども、地域性があるので、休日の日にこういう活動に参加するための交通手段とか、それから本当に五條市でそれだけの指導員が確保できるのかとか。その辺がもう令和8年って言ったらもうこの2年の間にそれをつくって

いかなきゃいけないっていうことに対して、すごく不安があるってこの間も言わせていただいたんですけども。今から協議の推進会議とかの中で進めていくと思うんですけども、子どもの受皿が休日できなかつたら、それでなくてもその家庭教育の時間数が減ってるのが部活に行かなかったからってそれは増えるものではないと思います。7割の子どもたちが部活動をしてるっていう、それを必ずその受皿をきっちりできるように対応していかないと、そこで部活動はもうこんな感じで行かれへんのやったら行かんとかになっていう形になった子どもたちの休日の過ごし方が、悪いほうに行くって言うたら変ですけど。もう勉強とかに行ってくればいいけれども、またそういう、SNSを見る時間が増えるとかそういうふうになってしまったら意味がないのでやっぱりここをきっちり、本当に令和8年に実施できるようにしていかないといけないって、すごくそれを思っています。これからいろいろ協議していただいて、受皿を整理していただくことに努力していただきたいと思います。先日、高取町の情報を見てたら、スポーツクラブみたいなので、そういう受皿、一般の社会人と中学生の子どもたちが一緒にまたそういうのができるクラブみたいなのを進めてるっていうのをちょっと情報で見たんですけども。五條市がどういう形で、今後この部分を進めていくかっていうところを期待もしてますし、努力して今やっている子どもたちの意欲をなくさない、そして、熱心に取り組んでいる部活動をやっている先生方の思いも、今まで一生懸命やって県大会で実績を残してるのに休日が自分の手から離れちゃうと、そういうところが低下してしまったらせっかく一生懸命熱心に指導して下さってる先生の思いも、なくなってしまうとそれも悪影響かなって思うので。本当に

これ初めてのことなので、みんなどうなっていくのかなって父兄の方も不安ですし、指導してる先生方も不安だと思うので、その辺を本当にこの２年間でうまく話し合っ
ていい方向へ進めていただきたいなと思っています。

（安満生涯学習課長）

奈良県のほうも、ガイドライン（方針）が間もなく届くという予定でございます。そういうのも踏まえまして、委員お述べのとおり、できる限り生徒たちの今の現状でいい方向に行くように努めていきたいと。ただ、これも必ず財源が伴うものでございます。国庫補助の関係とかが何もちょっと見えてない状況でございます。そういうことも含めまして、総合的といいますか、今後更に検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

（大西教育委員）

これまでの取組についてということで、アンケート実施とか、いくつか書いてくれるんですが、準備委員会等含めて方向性とか、こんな意見があったよとかいうようなものはどうなっていますか。

（安満生涯学習課長）

アンケートのポイントといたしましては、保護者の不安としまして先ほど委員からも御指摘のありました活動場所までの送迎、移動や送迎についてという部分が不安であるという方が、全体の６割です。教職員の方では約７割の方が自身の専門でない部活動を行っており専門的な指導ができない場合があるという御意見がアンケート結果と

なっております。現段階で、具体的な方針等は述べられるものがございません。今後アンケート結果等も含めて、進めていくという状況で御理解をいただきたいと思います。

(大西教育委員)

スポーツ協会の指導者等把握調査実施って書いてるんですが、まだそれは実施していないのか、把握できていないのか。

(安満生涯学習課長)

実施は終わっており、結果がございます。お配りさせていただきましたスポーツ部協会アンケート調査結果ということで、このスポーツ協会に所属している団体のみということになります。卓球協会、バスケット協会などからは、指導者として希望している方もおられるというところでサッカー協会、軟式野球等で、12部に対して、4部程度の中で指導者がいる可能性があるというような状況の調査結果となっております。以上でございます。

(平岡市長)

指導者のことなんですけど、小学校の駅伝大会で五條市が優勝させていただいて、よく陸上で頑張ってください表敬訪問もよく来てくださる。そんな中でやはり市としても、そこだけじゃないですけど多くの子どもを応援したいというところがすごくあって。その指導者の方も民間の方で自分の仕事をもっており、監督もコーチもやってくれてる方がおります。例えば、そんな方に今後声をかけていったり、指導者として

できるかできないのか分かりませんが、例えばそんな方がいっぱいいてと思うんですよ。ここじゃなく、今も既にやってくれてる方。そういう方とも今後協議はやっていきますか。

（安満生涯学習課長）

まず初めの段階としてスポーツ協会に声をかけたということで。そのほかも、あらゆるところには、声をかけていきたいと。調査していきたいとは思っているところでございます。

（平岡市長）

学校の先生の退職された方もおられると思いますが、体育の先生で野球を教えていたっていう方もおると思うんで、そういう方にもやっぱり早く声かけるっていうか、こういうことをやっていく。さっき井田委員さんが言われたみたいに、もう2年ぐらいあっという間に来ると思うんで。やはりこういうことを市としてやってるから協力していただきたいということを早く言っとかんと。また、他のところに仕事も行かれるかも分からないし、いやそれやったらやったのについていう話もあるか分からないので。それとまた交通手段のこともさっき言われてましたけど、それは今後、教育委員会としてはどういうふうに考えてますか。例えば場所を決めてやるのか、それでスクールバスを出すとか。子どもの人数によると思いますけど。

（安満生涯学習課長）

現在拠点校ということでもう中学校のほうでは合同で行っている状況があって、現段

階では、校長先生から聞いた話ですが、基本原則、子どもたちが自転車等々で学校に集っているとのこと。バスの送迎とかというのは今現在考えていません。今後について現段階では、それを基本に進めることができないかと考えています。あとは保護者の送迎というようなところで対応をしていくような方法などを含めて検討を行っているところであります。

(平岡市長)

例えば自転車は自転車で良いと思うけど、西吉野の生徒は自転車で来れないと思います。2年後になるって分かるんやったら、8年なので。やはりそのときに西吉野の子どもが何人おって、それをどこに住んでるかも分かるので、やはりそういったところの交通手段っていうのをまず考えておくというのも必要ちがうのかなと思います。それもまたお願いいたします。

(井上教育長)

いろいろ御意見をいただきましてありがとうございます。17ページの1番下のほうに教育委員会の意見というふうに書いていただいておりますように、今、全国の市町村の教育委員会はどこをどうするのかということで課題が多い。ただ、子どもたちが一生懸命活動することによって勉強では学べないようなことも部活動では学べますので、五條市としてはできる限り子どもたちの心身の成長を願ってしていかないとけないと思います。先だって島原市の市長さんが来られた時にも、部活動の地域移行をどうするのかと聞かれた。財源のあるところはいろんなスポーツ団体のところに委託

し、そちらに運営してもらいたいということは可能なでしょうけれども。ただ莫大な金額がかかるということが現状です。奈良県内のいろんな市町村でも、財源がどうなるかっていうのが見えない中で、うちはそこを連携しながら人材バンクの登録を目指して動いていかなければならないと担当も思ってくれていると思いますが。あと実際にチームを動かしていくとなると、審判をどこが、誰が出すのか。あるクラブでしたら試合に出ようとしたら審判を派遣しないと試合には参加させてくれません。審判に行こうと思えば講習を受けていないといけない。保護者になるか、指導者になるか分からないですが、行かないと資格が取れないんですよね。その費用はどうするのかとか、何百というようなハードルがあります。いろんな情報を得ながら17ページの2番、保険のことからも何から何までありますので、専門的な意見をいただきながら進めていきたい。近いところでは県の方から3回来てもらっています。実際どうするかというところについては県も考えておられますが、五條市としてはしっかりと子どもたちをサポートする体制。100%できないところもでてくるかと思いますが、子どもたちを何とかして育てていきたいと考えておりますので。また、協議会を離れて社会教育的な移行ということになりますので、皆様のお知恵も含めて良きアイデアをいただけたらありがたいと思います。とりあえず次年度はコーディネーターを入れていく予定をしております。

(西本市長公室長)

本日には報告案件を中心に進めさせていただいたところでございます。まだまだ御意見のほうを頂戴したいところでございますが、これをもちまして本日の総合教育会議

を終わらせていただきたいと思います。なお、冒頭申し上げましたとおり、今回の議事につきましては五條市のホームページで公表いたしますので御了承をお願いいたします。それでは閉会に当たりまして、教育長、最後に一言御挨拶をいただきたいと思います。

5 井上教育長 挨拶

子どもたちの数も減っていく中で、教育の質をいかに高めていくかということが本当に大切だと思っています。教育行政も、市長部局の行政も一体となって、人づくり、そしてまちづくりを進めなければならないというふうに思っている次第でございます。冒頭市長からございましたように、五條市で生まれ育ってよかったと。そしてさらには、若者が地域に定着してくれるように知恵を出さなければならないというふうに思っています。大津のいじめの事件があって、あれはたしか平成 27 年頃だったと思うんですが、そこで改正地方教育行政法というのが施行されました。市長をトップとして教育大綱を定めなさいと。そしてさらには、総合教育会議を開きなさいということで法的にうたわれたような次第でございます。私といたしましても五條市ビジョン、そして、五條市の教育大綱、そちらのほうをしっかりと見ながら、市長の方針も踏まえながら、第 4 期の五條市教育振興大綱というのを出しておりますので、それに則って市民の方々の意見を聞き、時には見直しをかけながら、教育行政を進めてまいりたいというふうに思っておるところでございます。五條市の教育の更なる質の向上を目指して、今後とも皆様方の御教示を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

ます。本日は御多忙な中、本当にありがとうございました。

(西本市長公室長)

はいありがとうございました。以上をもちまして閉会とさせていただきます。皆様本日は誠にありがとうございました。